

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・客単価は低いが、販売数、客数とも伸びている。新製品、話題の商品などの目的買いも多い。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・客単価が上がっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年同月比104%、売上高も同103%と伸びている。ボーナス、中元商戦などで今月は上向きである。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・前々年には追いついていないが、売上は毎日コンスタントに前年同日比で5～6%強上回っている。3か月前と比較すると下げ止まっており、ようやく上向きになっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・例年暑い夏はエアコンが異常に売れ、他の商品が落ち込み全体としては極端な売上増にはならないが、今年はテレビ、DVD、冷蔵庫、洗濯機などの主力商品が軒並み大きく売上を伸ばしている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・真夏日が続くエアコンの販売が好調である。地上デジタル放送完全移行まであと1年を切ったのでテレビの販売数量も大幅に上がってきた。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・前年に比べると売上は120%以上となっている。エコカーの販売や新車購入補助金制度締切り前の駆け込み需要の影響が大きく、9月までは現状を維持できるようだ。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・海外旅行が復活傾向にある。円高の影響と、前年の新型インフルエンザで海外旅行を自粛していたが今年はその反動で活発化している。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・客からの問い合わせが増加しており、全体的な実績も増加した。ボーナス商戦としては、昨年よりかなり良い結果であった。
		通信会社（社員）	来客数の動き	・夏のセールを実施している商業施設が多く、客足はある程度出ている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品も出揃いボーナス時期でもあり、客の動きも活発になってきた。今までは品定めで帰っていった客も購入までつながるようになってきた。
		美容室（経営者）	それ以外	・従来よりも2割ほど価格の高い新製品の売れ行きが好調である。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・景気は上向きだがまだまだ安定していない。先行きも不透明である。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月の3連休は県内外からの客で連日かなりの人通りがあった。また売上も前年を上回る数字で推移している店が数多く見受けられた。今後気温との戦いになるが、猛暑日が続くと売上が厳しくなる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・夏のバーゲンが立ち上がりが良くなかった。梅雨明けが早かったため、持ち直しに期待したが、実際には猛暑となり暑すぎるせいか客足が減少した。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・暑すぎるため、衣料の購買はより安価なものに目がいつているようだ。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・消費拡大のためにプレミアム付き商品券が発売されたが、売れ行きはいまひとつのようで、当初は抽選を予定していたが、そこまでの応募はなかったようだ。使い道も、日用品や食料品を購入するだけで、消費拡大にはつながりそうにない。行政が予想している以上に景気は冷え込んでいるようだ。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・全体的な改善はまだだが、取引先によってはかなり忙しくなっている先がやや増えている。
一般小売店〔事務用品〕（営業担当）		販売量の動き	・なかなかものが動かない時期であり、前年同月比では売上が落ちている。	
百貨店（売場主任）		販売量の動き	・中元期での受注1件当たりの平均単価の落ち込みはなかったが、件数の低下によって全体での売上は減少した。しかし、猛暑によるシーズン商品の売上増、高額商材の売上増により7月全体では売上が増加となった。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・記録的猛暑の影響を受けて、夏物の衣料品や雑貨関連の売上は前年同月比2～3割増加となった。サンングラスや帽子など同2倍、3倍の売上を示すアイテムもあった。しかし、猛暑に関連した商品は好調に推移したが、これら以外では一部上向きに推移しているものもあるが、全体としては前年を下回っている。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・客の買物意欲に復調の兆しがみられるものの、価格に対しては厳しい状況が続いている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・猛暑の影響による消費拡大がみられる。日よけ、寒冷関連グッズ、土用の丑の日の関連商品など積極的な購買がみられる。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・梅雨明け以降気温が一気に上昇し、季節商品が売れたため売上は前年を上回った。特にホームセンター部門では、熱中症がメディアで取り上げられたため、涼感ジェルスカーフ、アイス枕、水筒などが売れた。その他散水用品、すだれなども好調に売れている。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客数で6%、客単価で4%前後前年割れがここ数か月続いており、回復の兆しが見えてこない。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・気温の急上昇から飲料は前年より売れているが、従来のペットボトル飲料より、低単価の商品が売れている。全体の売上は前年比95%で推移している。
コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・客単価が前年より大きく下がっている状態での横ばいである。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・引き続き夏のセール商品の消化が比較的順調である。また、月後半に入荷した秋物にも客は興味を示している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・洋服のセールが一段落したが、今年の暑さがマイナスに作用している。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・相変わらず低価格のものしか売れていない。販売数量については増加傾向にある。また、クレジットカードでの支払いが増加している。
衣料品専門店（総括）	来客数の動き	・来客数を比較すると、客数が伸びている店舗もあるが落ちている店もあるため景気が上がったと言いはない。客単価が少し上がって、売上自体は前年と比較し横ばいなので状況は変わっていない。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・政府の新車購入補助金利用の駆け込み需要だと思われるが、受注は好調である。
乗用車販売店（経理担当）	単価の動き	・乗用車の販売量は、前年同月比約2割増加しているが、新車購入補助金終了前の駆け込み需要によるところが大きい。
自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・高額商品の動きが鈍化して集客の割には単価が低く、売上の回復に至っていない。
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・販促などいろいろ手を打った結果、前年とあまり変化がない。客の様子にも特別変化はなく、客数も昨年とそれほど変化がない。
その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・客単価が低いまま継続していることもあって、景気が良くなる兆しさ見えにくい。
その他専門店【医薬品】（営業担当）	お客様の様子	・既存店での客数の伸びが鈍化している。買上点数アップのため、ディスカウントやポイント倍増セールを実施し、客を引き止めている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年は新型インフルエンザの影響があり大きく数値を落としたが、今年は前年を超えても例年の数値までは戻っておらず苦戦している。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・梅雨明け後から客足は戻り始めているが天候の影響だと考える。客単価は低下傾向にあり、ファミリー客、グループ客が多くなる土日の客単価が低くなっており、ここ数か月客単価低下傾向は変わらない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・客の話では、婦人服は売れなくなってきているとか、実態経済は悪い方向に向かっているのではないかと懸念している。当店もぎりぎりの営業となり、初めてボーナスが出ない状態となった。
観光型旅館（経営者）	単価の動き	・夏休みに入り家族客を中心に予約数は前年並みだが、安価な宿泊企画に集中している。また、館内での二次消費も落ちている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内旅行およびMICE案件は活発化しつつあるが、海外案件の問い合わせが回復してこない。出張需要は前年の新型インフルエンザの影響が払拭され、回復基調にあるが、団体旅行の動きが極端に鈍い。

	タクシー運転手	来客数の動き	・前半は雨が降り人出は良くなかったが、梅雨明けが例年より5日早く、さらに暑い日が続いたため、涼を求めて繁華街に人出が増えた。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・午前11時までは稼働はあるものの、それ以降は稼働が止まる状況である。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・地上アナログ放送の終了を1年後に控え、テレビサービスのアナログ契約からデジタル契約への切替件数は着実に増加している。但し、新規契約者数の伸びは鈍化傾向にある。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新築部門は、前年比増加傾向（前々年比では微増）にあるが、客の低価格志向が強くなりカバーしている。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・毎年7、8月は住宅展示場来場者数が減り契約件数も減る傾向にあるが、今年は前月、前々月と比較して展示場来場者は増えている。	
やや悪くなっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ2～3か月、来客数は前年を5%程度下回っている。その中で、売出し日、ポイント付与増加日に来客が集中し、買物単価が上がっている。来客数減少、客単価上昇の状況となり、売上は前年比2～3%低下にとどまっている。	
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車購入補助金の終了が迫ってきたが引き合い自体は増えていない。もともと対象車種が限られているので新車購入補助金の対象車種しか熱心な引き合いが出ていない。	
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊人員は前年同月比117.6%、宿泊単価は同98.6%、総売上は同114.7%と好調に推移した。4月からの累計では総売上は同107%であるので累計期間中では一番良かった月と言える。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・売上は、前年比、前月比ともに減少した。	
	競輪場（職員）	販売量の動き	・今月の販売量は前年度並みであったが、今年度の全体的な販売量は前年度同時期比15%減となっている。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅展示会の来場者数が伸びないため、住宅着工戸数もあまり伸びない。	
悪くなっている	テーマパーク（職員）	単価の動き	・来客数は、個人客が前年並みに推移しているものの、一般団体、海外からの観光客は前年同月比3～4%の減少となっている。さらに、消費単価が前年比10%程度の下落となっている。特に観光土産の販売が鈍く、3か月前と比較し急激に悪化している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品群で多少ばらつきがあるものの、受注量が確実に回復基調にある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・衣料・非衣料を問わず、7～9月期は受注量が増えている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・サービスコールが増え、取引先の機械が本格的に稼働を始めている。それに伴い引き合い件数も増え、工場に来る客も増えている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・単価は非常に厳しい状況が続いているが、数量はここ2～3か月かなり増加している。また、取引先の新規投資意欲に明るさがみられ、新製品に対する引き合いが従来の3～4倍となっている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的には横ばいの状態が続いているが、一部の比較的高価格帯の商品については、数か月前での生産量の予測に対し、多少上積みされ生産計画が上方修正になっている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・機械製造業において受注の回復がみられる。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者から話を聞くと、不動産取引の動きが出てきたとする人が半分ほどいる。
		司法書士	取引先の様子	・債務整理の相談が減っている。
		税理士（所長）	取引先の様子	・客の申告内容を見ると、後半に向かって最近売上が伸びている。経営者と話をすると先の見通しがはっきりせず弱気なもの、思ったほど需要は低迷していないのではないかと感じている。
変わらない	化学工業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の状況から現在の受注状況はあまり変わらない。	

		プラスチック製品製造業（企画担当）	取引先の様子	・取引先であるハウスメーカーからは、製品についての説明会を開催して欲しいという要請が多くあり、メーカー側の苦しさをを感じる。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事量は3か月前と良く似ており、やや現場の人員が余っている状況である。
		輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・異常気象の中で通常の荷動きと違った特殊な動きをしている。衣料関係では、秋物がまだ動いておらず、全体的に物量が減少している。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月間状況に変わりが無い。荷動きが良くなっている客先もあるが、悪くなっている客先もあり相殺されている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・選挙関連で売上は増加したが、前年からみて土曜日が一日多いのでその分を加味すると横ばいかマイナスである。
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると、従来の単価では数量の減少が見受けられる。さらに単価の引下げがないと従来の数量が確保できない状況である。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・工事量の減少で受注価格競争がますますエスカレートしており、工事受注はさらに厳しさを増している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・製造業での求人数が増加した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人倍率は6か月連続して前年同月を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月より新規求人数が増加した産業が増え、新規求人数全体の増加幅が大きくなった。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・引き続き企業部門での回復の兆しが見られず、派遣需要の見込みも望めない様子である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数にほとんど変動がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は、前年同月比85%前後で推移している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・政府系機関は景気上向きを発表しているが、実際には各企業は雇用増加に至っていない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で40%程度の増加があった。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	